

邦楽のパイオニア達の共演

太鼓 林英哲
© M.Tominaga

民謡歌手
伊藤多喜雄

津軽三味線
木乃下真市

笛
一噌幸弘

尺八
中村明一

© Sakae Oguma

和楽器トリオ
AUN&HIDE

プロドキャスター
ピーター・バラカン

司会・監修

「邦楽ジャーナル」編集長
田中隆文

日本の 草加の 陣笠

平成 28 年

9月10日(土)

開場 13:15 開演 14:00 終演 18:00

草加市文化会館ホール

東武スカイツリーライン(東武伊勢崎線)「松原団地駅」東口徒歩 5 分
※ご来場の際は、公共交通機関をご利用ください。 埼玉県草加市松江 1-1-5

チケット ※未就学児入場不可 ※友の会の取扱いは文化会館のみ

全席指定 S席 5,000 円 / 友の会 4,700 円
A席 4,000 円 / 友の会 3,800 円
B席 3,000 円

発売日

友の会先行販売 6月4日(土)10:00 から
※電話予約は翌5日(日)10:00 から

一般販売 6月11日(土)10:00 から
※電話予約は翌12日(日)10:00 から

プレイガイド

草加市文化会館(チケット専用) 048(931)9977
東武よみうりチケットセンター 048(987)0553
新皇堂草加駅ビル店 048(922)6536
長崎屋酒店(谷塚駅西口) 048(925)2344
草加市物産・観光情報センター 048(921)1800
チケットぴあ 0570(02)9999
イープラス <http://eplus.jp/>
アーク <http://ark.on.arena.ne.jp/>

主催：公益財団法人草加市文化協会 後援：埼玉県／草加市／NHKさいたま放送局
企画・制作：オフィス・サウンド・ポッド この公演に関するお問い合わせ：草加市文化会館 048(931)9325

これまでにない“邦楽フェス” 一夜限りのスペシャル・ステージをお見逃しなく！

和楽器に新風を巻き起こし、新たな分野を開拓してきたバイオニア達が一堂に会するこの公演。
総勢6組のそうそうたる面々があいまみえ、まさに“草加の陣”と呼ぶにふさわしい。
司会も加わり、より深い邦楽の世界にご案内する。

◆AUN & HIDE / 和楽器トリオ

鬼太鼓座出身の双子の和楽器ユニット“AUN”井上良平・公平、鼓童出身の“鳴り物師”HIDEの3名が2011年に結成。日本を代表する太鼓グループで長年培った技術には定評がある。2012年文化庁文化交流使に任命され、同年春に39日間をかけてタイ・ラオス・ベトナム・カンボジアの4カ国を回り、学校公演、ワークショップ、野外イベント、コンベンションのゲスト参加等、29公演で10000人以上を動員した。現地ミュージシャンとのコラボレーションも多数行い、音楽を通した積極的な文化交流は各国で話題を呼んだ。帰国後、2012年6月、初のオリジナルアルバム「ONE ASIA」をリリース。同年11月末～12月初旬にて、バングラディッシュ・インド・スリランカの南アジアツアーを実施。2014年2月には日・ASEAN40周年記念行事として、ブルネイ・ペナンのアジアツアーを実施。和楽器(太鼓・三味線・笛・鳴り物)の魅力を最大限に引き出した、彼らのエネルギー溢れるステージは、祭りのように躍動感溢れるビートと、風のように爽やかな音色が心に響き、魂を熱く清める。

◆【AUN&HIDE】井上良平(和太鼓・津軽三味線)／井上公平(和太鼓・津軽三味線・篠笛)／秀:HIDE(鳴り物)／サポートミュージシャン:田中黎山(尺八)／伊藤圭佑(津軽三味線)

◆一噌幸弘 / 能楽師、笛演奏家、作曲家

東京都練馬区出身。安土桃山時代より続く能楽一噌流笛方、故一噌幸政の長男として9歳の初舞台以後、「道成寺」「翁」等数々の大曲を披(ひら)く。能楽師として能楽古典の第一線で活躍する一方、篠笛、自ら考案した田楽笛、リコーダー、角笛など和洋各種の笛を演奏し作曲活動も行う。能楽堂や数々のホールにて村治佳織、山下洋輔、藤原道山などの和洋楽器奏者や交響楽団と能楽古典や自作曲、クラシック、ジャズ等の演奏で共演。また石川さゆり、デーモン閣下などの歌手、舞踏家、書道家、華道家等、各界のアーティストとの共演や楽曲アレンジ、自作曲の提供など、その活躍はまさに縦横無尽。卓越した技量により新たな音楽の可能性を意欲的に切り開いてきた取り組みに対して日本文化芸術財団より第二回「創造する伝統賞」を受賞。重要無形文化財総合指定保持者。

<http://issoyukihiro.com/>

◆【一噌幸弘「速流笛破」】一噌幸弘(能管、田楽笛、篠笛、リコーダー、つの笛)／太田恵資(ヴァイオリン)／吉野弘志(ウッドベース)／吉見征樹(タブラ)／柿原光博(能楽太鼓)／望月太喜之丞(邦楽打楽器)

◆伊藤多喜雄 / 民謡歌手

今や世界中で踊られている、「3年B組金八先生」で知られた南中ソーラン「TAKIOのソーラン節」の生みの親。NHK紅白歌合戦出場(1989、2003年)。祖先が残してくれた日本人の血の中にある故郷の民謡を「民謡界」の枠にとらわれず音楽の原点である自由でフリーな捉え方で唄い、表現し作り伝えるTAKIOワールド。日本の言葉を含めた民族音楽としての民謡を、日常耳にする洋楽器と共にアレンジし、TAKIO BANDが演奏する中でTAKIO流の自由な唄い回しで唄い上げる。さらに一見民謡とは接点があるとは思えない様々なジャンルのミュージシャンとも共演し、積極的にライブ活動を展開、民謡の復活に向けて独自に活動の場を切り開いてきた。傍ら「唄がしの旅」を重ね、生活に基づく唄を訪ね歩く。唄を通して、地域の活性化を図るため楽曲の作詞作曲、日本各地の町おこしにも関わり、学校公演はもとより教科書の教則本で歌唱指導もしている。

◆【TAKIO BAND】伊藤多喜雄(民謡)／小山 豊(津軽三味線)／小演明人(尺八)／江草啓太(ピアノ)／磯部舞子(バイオリン)／竹田弘樹(ベース)／堀越 彰(ドラム)

◆木乃下真市 / 津軽三味線奏者

1965年 和歌山県出身。両親の影響で幼少の頃より民謡を覚え、10才の時父親から三味線を習う。1986・87年 津軽三味線全国大会二年連続優勝。1993年「木下伸市グループ」を結成し、オリジナルの「津軽三味線ロック」を発表。2000年 津軽三味線全国大会歴代A級チャンピオン山田千里杯争奪戦が行なわれ、初代グランドチャンピオンに輝く。2001年、アルバムをエイベックスより2枚同時リリース。以来、エイベックスよりCD「傳(DEN)」「魁(KAI)」「遭遇」「承」「パッション」とアルバム5枚をリリース。2011年、国立劇場開場45周年記念「津軽三味線を聴く 時代を超えた音色」と題したコンサートを行い、多彩なプログラムで観客を魅了した。

テレビ番組はテレビ朝日「徹子の部屋」「題名のない音楽会」、NHK「おしゃれ工房」「課外授業・ようこそ先輩」「トップランナー」「スタジオパーク」「紅白歌合戦」等に多数出演。国内でのコンサート活動の他、海外でも精力的にコンサートを行っている。現在は演奏活動と共に、津軽三味線木乃下流「木乃下三絃会」家元として門下生の育成にも力を入れている。伝統芸能である津軽三味線に現代的音楽を取り入れ津軽三味線の可能性を追求し続けている。正調津軽三味線のダイナミックかつ繊細な奏法にも定評がある。

◆中村明一 / 作曲家・尺八演奏家

米田パークリー音楽大学、米田ニューイングランド音楽院大学院にて作曲とジャズ理論を学ぶ。自ら捜しあて極めた日本古来の呼吸法「密息」、独自に開発した方法による「循環呼吸」、「倍音」を駆使。虚無僧尺八音楽の採集・分析・演奏をライフワークとしつつ、ロック、ジャズ、現代音楽、即興演奏、コラボレーション等に幅広く活躍。外務省・国際交流基金の派遣・海外からの招聘など、世界40か国、150都市で演奏。モントルージャズフェスティバル、ベルリンフィルハーモニーホールなどに出演。ハーバード大学、モスクワ音楽院等で講義。文化庁芸術祭レコード部門優秀賞(平成11・17年度)、第8回リサイタル「根柢派錦風流を吹く」により第19回松尾芸能賞受賞。作曲家としても第18回文化庁舞台芸術創作奨励賞。ドイツ国営放送、ラベル音楽四重奏団などから委嘱を受ける。

現在までに13枚のCD、3冊の著書を出している。東京学芸大学、山梨学院大学、洗足学園音楽大学大学院、桐朋学園芸術短大講師。日本現代音楽協会会員。

◆【AKIKAZU NAKAMURA FOREST】中村明一(尺八)／喜羽美帆(25絃箏)／ティム・ドナヒュー(ギター)／石黒 彰(キーボード)／デレック・ショート(ベース)／菅沼孝三(ドラム)

◆林 英哲 / 太鼓奏者

11年間のグループ活動後、82年太鼓独奏者として活動を開始。84年初の和太鼓ソリストとしてカーネギー・ホールにデビュー、国際的に高い評価を得た。2000年ドイツ・ワルトビューネでベルリン・フィルと共演。この模様は全ヨーロッパ、日本などに衛星生中継され、「林英哲」の名を世界に知らしめた。太鼓独奏者としてロック、ジャズ、現代音楽、民族音楽などの演奏家と共演しながら、かつての日本の伝統にはなかったテクニックと体力を要する大太鼓のソロ奏法の創造、多種多様な太鼓群を用いた独自奏法の創作などジャンルを超越した、全くオリジナルな太鼓表現を築きあげている。今年は演奏活動45周年を迎え、11月1日サントリーホールで記念公演を開催する。著書「林英哲 太鼓日月」講談社刊。97年芸術選奨文部大臣賞、01年日本文化芸術振興賞受賞。東京藝術大学客員教授。

<http://eitetsu.net>

◆【林英哲&英哲風雲の会】林 英哲(太鼓奏者)／田代 誠(和太鼓)／辻 祐(和太鼓)

(五十音順)

◆ピーター・バラカン / プロードキャスター

ロンドン大学日本語学科を卒業後、1974年に音楽出版社の著作権業務に就くため来日。現在フリーのプロードキャスターとして活動。「バラカン・ビート」(インターFM)、「ウィークエンド・サンシャイン」(NHK-FM)、「ライフスタイル・ミュージアム」(TokyoFM)、「ジャパノロジー・プラス」(NHK BS1)などを担当。

著書に『ラジオのこちら側』(岩波新書)、『わが青春のサウンドトラック』(光文社文庫)、『ピーター・バラカン音楽日記』(集英社インターナショナル)、『猿はマンキ、お金はマニ』(NHK出版)、『魂(ソウル)のゆくえ』(アルテスパブリッシング)、『200CD ブラック・ミュージック』(学研)、『ロックの英詞を読む』(集英社インターナショナル)、『ぼくが愛するロック名盤240』(講談社+α文庫)などがある。

◆田中隆文 / 「邦楽ジャーナル」編集長

1987年月刊誌「邦楽ジャーナル」を創刊。99～05年、日本初の邦楽専門ライブハウス「邦楽ジャーナル倶楽部・和音」開業。2001～10年邦楽界最大規模の総合イベント「日本の音フェスティバル」企画制作(JASRAC主催)。04～07年津軽三味線と太鼓の月刊情報誌「バチバチ」発行。06～10年NYにおける世界最大規模の芸術見本市「APAP」関連公演として「Hogaku: New Sounds of Japan」プロデュース、同年に講演(国際交流基金主催)。06年～邦楽アソシエーションを創設して邦楽器業界月刊紙「和楽器文化」発行。10年「宇宙箏」を小川楽器と製作、山崎直子宇宙飛行士が宇宙ステーションで演奏。11年～野坂操壽・沢井一恵「箏一ふたりのマエストロ」コンサート全国ツアー企画制作。12年5月京都で国際尺八コンクール主催。